

とやまと自然

第44巻夏の号

No.174 2021

はじめよう！^{こんちゅうさいしゅう}昆虫採集

いわた ともふみ
岩田 朋文



はじめよう！昆虫採集

いわた ともふみ
岩田 朋文

1. はじめに

カブトムシ、ナナホシテントウ、オニヤンマ、アゲハ、オオスズメバチ、トノサマバッタ……。地球上には100万種の昆虫がいるとの試算もあり、これは世界の全生物種の約半分（53%）が昆虫であることを意味します。これだけたくさんいると、人間から見れば不思議に感じる形、模様、大きさ、生態（生き方）のものもたくさんおり、調べれば調べるほど次々と面白いことが見つかります。そのため、昆虫は一生見飽きることもない魅力的な存在といえます。また、面白いだけではなく、人間が豊かに暮らすために大切な存在でもあります。例えば、昆虫は多くの植物の受粉を手伝ってくれますし、様々な動物のえさとなることで、地球全体の自然（生態系）を支えています。ところが、最近は昆虫に苦手意識がある人や、興味はあるけれどどのように接したら良いかわからない人が増えたようです。このままでは、昆虫の面白さが忘れ去られてしまうだけでなく、生き物同士がつながっている大切さを知る人が減り、人間にもなくてはならない地球の自然が必要以上に壊されてしまうおそれもあります。

そこで富山市科学博物館では、昆虫の面白さや大切さを知るきっかけにいただくため、特別展「はじめよう！昆虫採集」を令和3年7月17日（土）～10月3日（日）に開催します。虫採りの方法を知ること、昆虫の面白さや大切さを感じるために基本となる「実際に昆虫に接すること」ができる人が増えることを願っています。

また、難しいことは抜きにしても、虫採りはすごく楽しいものです。何が採れるか想像するワクワク感、採りたい種類を採った時の達成感、予想外の昆虫が採れた時の驚き、虫採りを通じて出会った人や訪ねた場所、どれも忘れられない人生の思い出になることでしょう。幸運なことに、昆虫は皆さんの身の回りにたくさんいます。

さあ、虫採りを始めましょう！

2. 本紙について

本紙は特別展「はじめよう！昆虫採集」の展示内容のうち、初めて虫採りに挑戦する人の参考になる部分を集めました。虫採りの方法は、本紙のほかにも、たくさんの本、雑誌、ウェブサイトで知ることができるので、いくつかの資料を読むと、偏りなく学べるでしょう。虫採りを極めたい人は、馬場金太郎・平嶋義宏編『新版昆虫採集学』（九州大学出版会、2000年）という812ページもある本がありますので、読んでみてください。

3. 虫採りの服装・持ち物

服装は、安全に虫採りをするために重要です。スーツやスカートが絶対にだめとは言いませんが（学校や仕事の昼休み中にちょっとだけやることもある）、基本はハイキングの服装をおすすめします（図1）。



図1. 虫採りの服装。網を振る時はできるだけ身軽になると良い。

持ち物（虫採り道具以外）も基本はハイキングと一緒です。ポイントは、手には虫採り網以外を持たないこと。また、狙いの昆虫を見つけたら、リュックや水筒をいったん体から下ろし、身軽になりましょう。この一手間で、網を速く振れるようになり、アゲハやオニヤンマなど動きが素早い昆虫を採れる確率がぐっと上がります。

4. 虫採りの道具

初めて虫採りに挑戦する人は、図2のアイテム1～5を最初に用意しましょう。

アイテム1・虫採り網は、道具の中で一番重要です。百数十円～2万円くらいのものがあります。オニヤンマやアゲハなどの大物を採りたい人は、杵の直径40cmくらい、柄が160cmくらいのものが適しています。2～3千円しますが、成果を出せるかどうかの決め手になるので、ここはお金をかけるのが

おすすめです。なお、安い（杵が小さい）網は、セミなど、木の幹にいる昆虫を採るのに向いているほか、草むらのバッタなどを採る性能は大きい網とあまり変わりません。

アイテム2・虫かごは、最初は安いもので構いません。持ち運びやすくするため、ひもをつけて肩に掛けられるようにしてください。中に草やくしゃくしゃにした新聞紙を入れると、採った昆虫同士が絡み合わず、弱りにくくなります。

アイテム3・ピンセットも最初は安いもので良いです。無くしやすいので、目立つテープを貼ったり、ひもでベルトとつなげたりしましょう。ピンセットは、素材、先端のとり具合、つまむ力にさまざまな種類があり、虫採り上級者になったら、自分に合ったものを改めて探すのも非常に楽しいです。

アイテム4・手袋は、手の保護や虫採り網を握りやすくするのに役立つほか、初めて昆虫を触る人の



アイテム1・虫採り網。一番重要な虫採り道具。はじめは2～3千円のものがおすすめ。



アイテム2・虫かご。中の昆虫が弱らないよう、草などを入れておくとうまい。



アイテム3・ピンセット。狭いすきまにいるクワガタのほか、毒虫、汚い虫、小さい虫等をつまむのに役立つ。



アイテム4・手袋。手の保護のほか、初心者昆虫を触る心理的ハードルをさげられる。



アイテム5・ヘッドライト。夜はもちろん、薄暗い森の中では昼間でも活躍する。



アイテム6・吸虫管。小さい虫を掃除機のように吸い取る。虫採り上級者の多くが持っている。

図2. 虫採りの道具。

心理的なハードルを下げてください。手のひら側はゴム製、手の甲側は布製のものがおすすめです。ただし、小さな昆虫をつまんだり、細かな作業をしたる時は不便です。私は左手だけにはめ、左右の手を役割分担させています。

アイテム5・ヘッドライトは、暗い場所で虫採りをする時に欠かせません。成果を出せるかの決め手になりますので、しっかりと明るく照らせるものをおすすめします。防災用品としても使えます（防災用を兼ねる際は点灯持続時間や防水性なども考慮してください）。明るさは、虫好きの中でも意見が分かれています。300ルーメンほどあれば良さそうです。私は最大光量1000ルーメンのものを光量調

節しながら使っています。

アイテム6・吸虫管は、小さい昆虫を掃除機のように吸い取る道具です。虫採り上級者の多くが持っている専門的な道具なので、参考に紹介しました。

5. 昆虫の探し方

昆虫は多くの動物（人間にも！）に食べられてしまうため、基本的に逃げたり隠れたりしています。そのため、図3のように石や朽ち木をひっくり返したり、草の茂みを探したり、かくれんぼの鬼のようにきょろきょろ探したりしましょう。下だけ見ていたら空を飛ぶチョウを見逃しますし、上だけ見てい



石起こし：石のほか、朽ち木や植木鉢の下などもねらい目。ゴミムシやハサミムシなどが採れる。



掘り採り1：草の茂みなどでランダムに虫採り網をふる。バッタやカマキリなどが採れる。



掘り採り2：木の枝や葉を虫採り網の中に入れ、ゆらす。カマキリやタマムシが採れる。



見つけ採り：きょろきょろと目で探す。トンボ、チョウ、テントウムシなどが採れる。

図3. 虫の探し方。（丸枠内の昆虫写真は吉谷昭憲氏撮影）

たら足元のバッタを見逃します。探した分だけ、たくさん採れます。

また、昆虫は種類ごとに見つかる場所や季節が決まっています。そのため、採りたい昆虫が決まっている場合は、出かける前に本やインターネット、詳しい人から情報を集めることが重要です。例えば、カブトムシは夏にクヌギやコナラ林でみられ、標高が高い場所にはあまりいません。これを知らずに、秋にスギ林に行ったり、立山山頂で探したりしてもほぼ見つからないでしょう。成果を出せるかどうかの半分は行く前に決まるのです。

下調べが済んだら、いよいよ探しに出かけます。昆虫は皆さんが思っている以上にたくさんいますから、きちんと調べ、きちんと探せば、きちんと採れるものです。いつまで我慢強く探せるかが、成果を分けるように思います。

6. 虫採りのマナー

虫採りは原則的には合法的な行為です。ただし、国立公園特別保護地区など、法律で採集が禁止されている場所があったり、天然記念物や国内希少野生動植物種など、採集禁止の種類があったりします。また、法律違反ではなくても、乱獲（同じ昆虫を採りすぎる）、他人への迷惑、けがなどには注意が必要です。「次回来た時、今回と同じように虫採

りできるか？」を基準に考えると良いと思います。具体的には、次のようなマナーを守りましょう。

- ・ ひっくり返した石や朽ち木は元に戻す。
→戻さないと次回ひっくり返す石が無くなる。
- ・ 朽ち木を崩すのは一部分だけにします。
→全部崩すと次回崩す朽ち木が無くなる。
- ・ 出会った人にはあいさつをする。
→不審者だと思われて立ち入り禁止になるかも。
- ・ 乱獲しない。
→採りつくしたらもう採れなくなる。
- ・ けがをしない、させない。
→家族に止められて虫採りできなくなる。

7. 公園で虫採り

野外に出かけることに慣れていない人は、まずは緑の多い公園に行ってみましょう。遭難、けが、トイレなどの心配が少ないですし、何かあってもすぐに帰れます。富山県内であれば、市街地にある公園でも十分に楽しめます。例えば、私は科学博物館前の城南公園（図4左）でギンヤンマやモンキアゲハなどの大物を見たともあります。公園では、花（チョウなど）や水たまり（トンボなど）での待ち伏せも効果的です（図4右）。もちろん、夏であれば木の幹にセミがいますし、草むらにはバッタ類も見られます。



富山県内であれば、科学博物館前の城南公園など、街の中の公園でも大物がねらえる。



ツツジの花の前でまちぶせ。花や水たまりには大物がやってくることもある。

図4. 公園で虫採り。（丸枠内の昆虫写真は吉谷昭恵氏撮影）

8. 森で虫採り

虫採りといえば、森の中でのカブトムシ・クワガタ採集に憧れる人が多いはず。実際、豊かな森の中ではこれらをはじめとしたたくさんの昆虫を採ることができます。しかし、クマやスズメバチ類などの危険生物、落石や道迷いなどの事故には十分注意が必要です。ある程度野外活動に慣れてから出かけたり、詳しい人と一緒に行ったりしてください。富山県には、猿倉山のように街から近い森や、有峰のように山の奥地に広がる深い森など、色々な森がたくさんあります。

カブトムシやクワガタを採りたい場合は、夜、樹液が出ている木に行くのが基本です。コナラ、クヌギ、ヤナギなどの樹液が好きなようです。ただし、いきなり夜に探しに行っても、樹液が出ている木を見つけるのは難しいですし、何より危険です。昼間に樹液の出ている木を探してから、夜に出かけるようにしましょう。

樹液探しのコツは、樹液が好きなタテハチョウ、スズメバチ、カナブンなどを探ことです(図5左)。樹液そのものを探すより、見つけやすいです。また、樹液は私たちの鼻でもわかるほど甘酸っぱいにおいを出すので、眼だけではなく鼻も使いましょう。

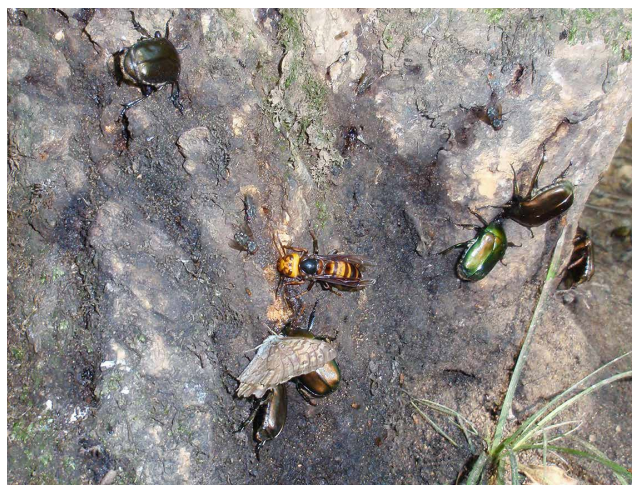
無事に樹液を見つけたら、昼間でも洞の中にピンセットを入れてみたり、木を蹴ったりすると良いです(図5右上)。薄暗い森の中では、昼間でもクワ

ガタが採れることがあります。また、木の根元の落ち葉を掘ると、カブトムシがゲットできることも！

虫採りのベテランになると、カブトムシやクワガタをおびき寄せる罠を使う人もいます。バナナを焼酎で発酵させたものをストッキングやペットボトルに入れ、木にくくりつけます。「バナナトラップ」



樹液を見つけたら、木を蹴ってみよう。振動でクワガタが落ちてくるかもしれない。



樹液探しは、タテハチョウやスズメバチを目印にするほか、においも重要な手がかり。



夜、白い布に強い光を当てて作るライトトラップ。何が採れるかわくわくする。

図5. 森で虫採り。(丸枠内の昆虫写真は吉谷昭憲氏撮影)

や「ノムラホイホイ」と呼ばれるものです。また、^{あか}灯りに集まる性質^{せいしつ}を利用し、ライトトラップ^{しつか}を仕掛ける人もいます(図5右下)。罨^{わな}は、樹液^{じゅえき}で探すよりもたくさん採^とれることが多く楽しいのですが、絶対^{ぜったい}に！何が何でも！後片付け^{あとかたづ}をしてください。罨^{わな}をほったらかしておくと、いつまでも虫を集め続けるので乱獲^{らんかく}になりますし、住民からの苦情^{くじょう}により、罨^{わな}の設置や虫採りができなくなってしまった場所もあります。

9. 街灯の下で虫採り^と

「カブトムシやクワガタは採^とりたいけれど、夜の森に入るのはちょっと心配・・・」という人には、街灯の下での虫採りを提案します。夜、橋や

ダムなどの街灯^{ごんちゅう}に集まる昆虫を拾^{ひろ}う方法です(図6)。お手軽ですがライバルが多いので、ここでも、採^とれるまで探し続ける頑張り^{がんば}が大切です。

街灯での虫採りで重要な道具はアイテム5・ヘッドライトです。スマホのライトでは暗すぎるので、必ず準備^{じゅんび}しましょう。なお、懐中電灯^{かいちゅう}でも悪くはありませんが、両手が空くヘッドライトの方が便利です。

目的地に着いたら、車から降り^おり、必ず自分の足でじっくりと歩いて探^{さが}してください。車から降りず、窓^{まど}からライトを出して地面を照らすだけの人を見かけますが、採^とり損ねることがほとんどです。私は、暗いライトで探^{さが}している人や、車から降りない人が通った後でも成果を上げています。夏休



夜の橋。最近^{ごんちゅう}はLEDの街灯が多いが、昆虫がよく集まるのは水銀灯の街灯。



橋にいたヒラタクワガタ(47mm)。富山の個体^{こたい}としてはなかなか大きいので、嬉しい。



左からノギリクワガタ、コクワガタ、カブトムシ、キボシカミキリ。この日、この橋では、ヒラタクワガタのほかにもいろいろな種類^{しゅるい}をゲットできた。とても嬉しい。 ※左上の橋とは別の橋です。

図6. 街灯の下で虫採り^と。



たい肥置き場でカブトムシの幼虫を探す。シャベルや手ぐわを使う。幼虫を傷つけないように慎重に掘る。



カブトムシの幼虫。同じような場所で採れるほかのコガネムシ類よりも明らかに大きい。幼虫が大きくなる冬から春に探すと良い。

図7. カブトムシの幼虫探し。

みで夜更かしして良い人は、一晩に何か所も回ると、どこかで成果をあげられるかもしれません。私は午後7時～午前2時くらいまでに5～6か所回ることが多いです。

ちなみに、夜に起きているのが難しい人は、幼虫を探すという方法もあります。カブトムシであれば、森の中の落ち葉が溜まっている場所や、畑の横に農家の方が作っているたい肥の中で見つかります（クワガタの幼虫は朽ち木の中にいます）。こうした場所をシャベルや手ぐわで掘ると採集できます（図7）。なお、畑で探す場合は、農家の方のお仕事の様子をみて、邪魔にならない時に声をかけてみてください。



図8. 標高2,662mの北ノ俣岳で虫採り（通常は昆虫採集禁止で調査許可が必要）。虫採りの基本は何も変わらない。

10. おわりに

本紙では、初めて虫採りに挑戦する人向けの基本的なことを解説しましたが、この知識は、虫採り初心者者を卒業してからもずっと使います。私は、飛騨山脈の奥地（標高2,500m級の山岳地帯）など、許可を取らないと昆虫採集ができない場所での特殊な虫採りをする機会も多いですが、手袋をつける、網を振る時は荷物を下ろして身軽になるなど、やっていることは変わりません（図8）。虫採り続ける限り欠かせないことばかりですので、ぜひマスターしてください。

また、子供が虫採りを始める場合、大人の協力が欠かせません。私は小さい頃からずっと虫採り続けてきましたが、昆虫好きな兄、毎週のように車を出してくれた両親、手作りの虫採り網を作ってくれたりした祖父母などの存在が大きかったのは間違いありません。本紙を読んだ大人の方は、ぜひ、子供をサポートしてあげてください。わからないことがある時や、いくら探しても狙いの種類が採れない時など、困った時は、気軽に博物館に質問に来てください。待っています！

